蓮（はちす）のうてなの御詠歌（浄蓮調）

♩＝66～72 ぐらい

曽我晃也作曲

蓮（はちす）のうてなの御詠歌

さきだたば　おくるるひとを　まちやせん　はなのうてなの　なかばのこして

法然上人は「会者定離（えしゃじょうり）は常の習、今始めたるにあらず。何ぞ深く歎かんや。宿縁むなしからずば同一蓮に座せん。浄土の再会甚だ近きにあり。今の別れは暫くの悲しみ、春の夜の夢のごとし。信謗（しんぼう）ともに縁として、先に生まれて後を導かん。引接縁（いんじょうえん）はこれ浄土の楽しみなり」と仰せられています。

念仏往生人は神通自在の徳を得、菩薩の行が出来る力をそなえています。念仏有縁の方の臨終にはその方が一番親しい分かりやすい生前の姿で、仏聖衆と共にその方の眼前に現れ、浄土に間違いなく往生出来るという確信を持たせ、安心して正念に住して勇んで浄土に往生できるように助け迎えて下さいます。

大意　私が先にお浄土に生まれましたら、後からお浄土に来られるあなたのために、蓮の台（はちすうてな）を調（ととの）えてお迎えいたします。

ポイント注意

●「はなのうてな」から明るい声で、「はな」が「あな」にならないように。